

令和3年度（2021年度）北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会 議事録

【日時】令和3年（2021年）7月28日（水）13:00～15:00

7月29日（木）13:00～16:00

【場所】オンライン開催

北海道庁別館地下1階大会議室A（事務局）

【出席者】

- （1）北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会長 1名
- （2）北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会委員 17名
- （3）子ども未来推進局長、子ども子育て支援課長ほか事務局 等

28日の内容

- 1 開会、オリエンテーション
- 2 部会長挨拶
- 3 副部会長の選出
- 4 講義「みんなにとって“未来に希望を持つ”ってどういうことだろう」
- 5 2日目についての説明

開 会

- ・司会～保健福祉部子ども未来推進局 加賀主査

オリエンテーション

- ・事務局から、日程・注意事項などの説明

部会長挨拶

皆さん、はじめまして。

私は部会長の野村といたします。現在、北海道社会福祉協議会に勤務しておりまして、札幌市中央区在住、出身は小樽市です。本日は全道各地から17名の中学生、高校生の皆さんに集まっていただきました。

オンラインの会議ですが、学校の授業でもこのような方式が増えてくるのかなと思っております。皆さん、

私も含めて初対面なので、画面上でも緊張感がありますね。でも、リラックスして、普段通りの形で、気軽に参加してもらえたらと思います。

今日は「みんなにとって“未来に希望を持つ”ってどういうことだろう」というテーマで話しを聞いてもらいますが、皆さん全員がこの話を聞いた上で、明日は「新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中にあっても、私たちが未来に希望を持って生活するために必要なこと」、これについてグループワークをしてもらう流れになっています。大変大きなテーマになってしまいますが、皆さんの学校、家庭、地域での良い取り組み、皆さんが日々の生活の中で、「こうなったら良いな」と感じていることをグループワークで持ち寄って、未来に希望を持って生活をするためにはどのようなことが必要なのか、皆さんのフレッシュな考え、疑問を出していただきたいと思っています。

今日、明日と貴重な時間を預らせていただいて、実りのある時間にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副部会長の選出

【野村部会長】

審議に入る前に、1つ決めなければならないことがあります。この「子ども部会」は、決まりによりまして、「部会長、副部会長、部会委員を持って構成する」となっています。副部会長の役割は、部会長の補佐として、部会長に事故等があった時の代理となります。

副部会長の決め方は、「互選」となっています。これから副部会長を決めたいと思うのですが、皆さんは、今日、オンライン上で会ったばかりなので、互選するのは難しいと思います。皆さんの中で、副部会長をやってみたいと立候補される方はいませんか。

※赤川委員が挙手

(全員が認める)

赤川委員よろしくお願いいたします。

講義：「みんなにとって“未来に希望を持つ”ってどういうことだろう」

講師：Youth+センター 児玉 奈緒美 氏

Youth+センター 児玉 奈緒美 氏

Youth+センターの児玉と申します。本日はよろしくお願いいたします。

今日は「みんなにとって“未来に希望を持つ”ってどういうことだろう」というタイトルで、今回のテーマは答えが一つではないので、教えるということではなく、答えはみんなの中にあって、それをみんなで知っていこう、みんなで考えてみようという形になっております。まずは簡単に自己紹介をしていこうと思います。本日、Youth+から2人の職員も来ていますので、自己紹介をさせてもらって、チェックインというものを皆さんにもしてもらおうと思います。「今日どのような気持ちで参加しているのか」を話してもらって、

チェックインとしたいと思います。

(自己紹介)

講師からグラウンドルールの説明

1つ目「人の意見や想いを否定しない」というところで、初めましての人もいると思うのですが、その中で自分とは真逆だなと思うこともあるかもしれないですが、それをシャットアウトしてしまうとすごくもったいないので、自分との違いを見つけていって、たくさんの視点を吸収できれば良いと思っています。

2つ目は「リアクションは大きくする」です。一人一人の画面が小さく、すぐに確認をとれないので、手を挙げる、大きくうなづく等してもらえたらと思います。

3つ目「たくさんの声が聞こえる場を作る」です。今、ここにいるみんながどんな人でも話しやすいようにするために、自分ができることは何かということを考えてもらって、うなづく等もそうですが、いろいろな人が話しやすい空気を作ってもらえたらと思います。

最後に「他人が嫌な気持ちになるような言動・態度は取らない」です。みんなは大丈夫だと思いますが、改めて、お願いします。

講師からの質問①

「今日はどうして参加しようと思ったのか」

【赤川委員】

先生から推薦されたのは2人だったが、もう1人の方から、自分は生徒会副会長もしているので、生徒会の意見も持って行けると言われ、自分も誰かと意見を交わすことが好きなので、こういう場に参加したいと思いました。

講 師

赤川委員はなぜ人と意見を交わすことが好きなのか、理由はありますか。

【赤川委員】

他人の意見を聴くと、そういう見方もあるな等、視野を広げることができるからです。

講 師

人といろいろな話をする中で、自分のことを客観的に見られるということですね。

【平岡委員】

自分も赤川さんと同じで、先生から推薦され、生徒会にも加入しているが、今後、スポーツフェスティバルなど、イベントがあり、それに関する生徒会での意見に部会の意見を共有していきたいと思い、今回の参加を決めました。

講 師

学校のイベントのためにもいろいろな話を聞いておきたいというところですね。

【小菅委員】

空知の代表として出てほしいというのを聞いて、そういう機会があるのならばぜひ出たいと思いました。こ

の機会、たくさんの意見交流をして、もっと自分の意見を広げたいと思ったので参加しました。

講 師

小菅さんは、どうして自分の意見を広げたいと思ったのですか。

【小菅委員】

たくさんの方が参加しているので、自分の意見だけではなくて、違う視点の意見を聞けるのは良いかなと思いました。

【奈良委員】

渡島の中で自分の高校が代表に選ばれたので、農業高校ならではの普段の学びを生かした意見を出していきたいと思ったからです。

講 師

ちなみに奈良さんは、どうして農業高校を選んだのですか。

【奈良委員】

中学生の時から、農業という分野に興味があって、そこから北海道は農業が盛んなので、少しでも北海道の農業に貢献ができれば良いなと思って、農業高校に進学しました。

講 師

奈良さんにとって農業は身近な問題なのですね。

【大山委員】

先生からの推薦が大きかったです。生徒会で学校行事を進行する上で、生徒会の中では同じような意見が多いので、こういう場でたくさんの意見が聞けたら良いなと思って、今回参加しようと思いました。

講 師

大山さんは、生徒会であまり意見が聞けないということはどう思っていますか。

【大山委員】

意見が聞けないというよりは、似たような意見、同じような意見がたくさん出てくるので、ちょっと別の角度から見られたらという考えです。

講 師

多様な意見はどのようにしたら出るのかということも、今回いろいろな人から意見を聞く中で、見えてきたら良いですね。

【大八木委員】

先生から推薦を受け、北海道中から来た人と話ができる機会はほとんどないと思い、そのような経験ができるから参加しようと思いました。いろいろな人の意見が自分にとっても良いものになると思いました。

講 師

いろいろな人の意見を聞いた方が良いと気がついたのはどうしてですか。

【大山委員】

人の意見は自分とは違うので、いろいろな視点を学べることで、いろいろな角度から物事を考えられるようになりたいからです。

【眞鍋委員】

先生からの推薦があったのと、日々、自分が登下校中とか人混みとかを見て感じていること、ニュースを見てこういう風になっているんだということ、北海道のみんなと共有して、今後の生活に生かせたら良い

など思い、参加しました。

講 師

今回聞いた意見を次にどういう風に生かしていこうと思いますか。

【眞鍋委員】

私は、将来看護師を目指していて、新型コロナウイルス感染症の話など、何か生かせることがきっとあると思うので、自分のためにも、みんなのためにもなるようにと思いました。

【及川委員】

自分の将来の夢が、オホーツクの教師になることで、これから生まれてくる子ども達が、より良く学校生活を送ることができるように、今から北海道を良くしたいと思っています。

講 師

子ども達のためというのは、どうして思うようになったのですか。

【及川委員】

自分が北海道で過ごしていて、不便なこと、交通の便とかもあるので、もっと生活しやすいようになれば良いと思ったからです。

【中川委員】

私が高校生活の中で思っていることが、高校生でしかできないこと、この年齢でしかできないことをやりたいなと思っていて、コロナ禍でできることが制限されているし、高校生だからという理由で制限されることも多いと思います。なので、そういった年齢など関係なく、自分たちがやりたいこと、協力できること、この年齢だからできる方法とかをしていけたら良いと思っています。それをする上で、いろいろな人の考えを共有したり、この会議も高校生の視点を活かし、どうしたら北海道が良くなるのかを推進しているので、この会議に参加して、自分も向上していけたらなと思っています。

講 師

実際に生活をしていて、高校生だから駄目とか、悔しい思いをしたことはありますか。

【中川委員】

コロナ禍で、辛いとか苦しいという生活が目に見える社会になったように思っていて、でも、私たちはその中で勉強することしかできない。それが辛くて大きかったです。

【山川委員】

私も生徒会で会長をしていて、コロナ禍でリモートで学校行事をすることも増えて、どうしたら全校生徒が楽しめるのか考えなければいけなくて、はっきりいってコロナ禍においてやることが尽きてきている状態で、この機会に皆さんの意見を聞いて新たにみんなで楽しめることは何だろうと探せたらと思っているのが一つで、もう一つは、私は生まれつき障がいを持っていて、車いすに乗っているのですが、今回、支援学校では私だけなので、車いすに乗っているからこそ、難しいこともたくさんあって、そのことも皆さんに知ってもらえたら嬉しいなという思いもあって参加しました。

講 師

コロナ禍でこういう風になっていったら良いなという思いはありますか。

【山川委員】

今はとにかくみんなが集まらない状態なので、早く集まれるようになったら良いと思っています。

【高久委員】

いろいろな人の話を聞いてみたいと思い、みんなのためにもなればと思ったことで参加しました。

講師

高久さんの「みんなのために」という部分をもう少し教えてください。

【高久委員】

コロナ禍で将来を悲観している人がいたら、コロナの中で成功している人の話を聞く機会を作ったり等を考えています。

【江尻委員】

僕自身、人と意見交流をするという機会が少なく、こういう機会に慣れていないので、ぜひ参加したいと思ったことと、コロナが流行している現在ですが、僕たちの地域は比較的少ない方なので、他の地域の方々の声を聞かせていただきたいと思い、参加しました。

講師

他の方の意見を聞いて、それをどのように活かしたいか、今の考えがあれば教えてください。

【江尻委員】

自分一人の考えだけだと限りがあるので、皆さんの意見を聞いて、より広い視野が持てそうだと感じています。

講師

みなさんの話を聞いていて「人の話を聞くことが大事」というのがあって、その理由やそう思ったエピソード等があれば、聞いてみたいと思います。

【平岡委員】

最近、学校祭を生徒会で運営したのですが、コロナウイルスの関係で例年通りできなくて、そのときにインターネットとかで、他校の意見を見て、例えば「解放された空間で運動する」、「ビデオを撮る」等があって、他の観点からの意見を聞くことの重要性を感じました。

講師

他の人の意見を聞くことで、より良いものを作り上げたりとか、課題とかも打破できるということですね。

【小菅委員】

オリンピックが開催されているんですけど、私はオリンピックを開催してほしいと思っていて、でも一方でニュースとかを見ていると、コロナウイルスで感染が怖いという理由で反対している人もいたので、自分と考え方が違う人がたくさんいるんだなと思って、自分の意見だけではなくて、考えていくことが大切だなと思いました。

講師

何か一つのことを決めるときに、どちらかに偏った人だけが話すのではなくて、違う立場の人に参加してもらって、意見や思いをすり合わせて、どうしたら良いのかを考えることが大事ですね。

【赤川委員】

自分の学校では最近学校祭があって、その終わりにアンケートを取って、生徒会で反省会を行ったのですが、生徒会の中での反省にはなかった意見が結構出ていたりしたので、運営する側とそれを楽しむ側では立場が違うので、他の人の意見を聞いて、来年はもっと良くしようとか考えることができるので、人の意見を聞くことは大事だなと思いました。

講 師

生徒会と違う意見というのは、どのようなものがありましたか。

【赤川委員】

例えば、今回は体育館のステージの企画に入場制限を設けたりしたのですが、生徒からの意見で、1日目と2日目と行ったのですが、「両方のステージを見ることができなかった」というのがあって、生徒会の運営としては大変になるのですが、見る側の意見として、来年からは参考にしたいと思いました。

【中川委員】

先日、学校祭があったのですが、コロナ禍で制限されることがすごく多くて、できないことも多かったのですが、その中でどうやってやるのか、オリンピックもそうなんですけど、ゼロにするのはすごく簡単だなと思っていて、ゼロにしないでやるためにどうすれば良いのかを全員で考えることが大切で、私の学校ではリモートで行ったのですが、できないのであれば、なぜその人は反対しているのかを聞いて、それを解消するためにどのような企画をすれば良いのかというのを考えるのに、いろいろな人の意見が必要だなと思いました。

講 師

賛成、反対の意見を深掘りして聞いていくことで、どうすればより良くなるのか、そういう議論になることがすごく大事で、大事な気づきだなと思いました。

講師からの質問②

「希望ある未来はどのような姿なのか」

【平岡委員】

自分の先輩の話なのですが、大学や専門学校でリモートの授業がわかりにくい、リモートを使用せずに十分な教育を受けたいということを知っていて、自分も進学を希望しているので、同じように思っているが、コロナが収束して、十分な教育を受けて、進路活動等に打ち込める環境になっていれば、希望のある未来と思います。

講 師

現在は、人との接点をなるべく減らそうとしているからこそ、そういった部分を除いたことができる未来が良いなということですね。

【小菅委員】

誰もが平等に安心して暮らせることが希望ある未来だと思っています。現在はコロナもあって安心して暮らせないと思いますし、世界中には学校に行けない子どもとか授業を受けられない子どもとかもいると思うので、そういった子たちも、みんなが安心して暮らせる環境を作ることが希望ある未来だと思います。

講 師

コロナに関する話などは、どういったところから聞いたのですか。

【小菅委員】

社会の授業とかで勉強をしたので、世界中にはいろいろな子どもがいるので、安心して暮らせる環境を作ることが大切だなと思ったことが印象に残っていたので。

【赤川委員】

幼少期や少年期に体験した自分の家族の光景が真っ先に思い浮かびました。僕が体験した家庭を実現するために、例えば家族を養えるだけの場所に就職をしたりとか、進学をしたりとか、そういうことが可能なのが希望ある未来なのかなと思いました。

講師

赤川さんにとっての家族の風景とはどういったものですか。

【赤川委員】

例えば、父親だったら、仕事から帰ってきたら自分の相手とかしてくれたりしたので、休日になったら出かけたり、冬になったら庭にスケートリンクを張ってくれたりもしたので、自分にとって楽しい体験だったので、どれも実現できたかなと思っています。

【奈良委員】

人と人が何かを通して関わりを持って、活気ある社会になることが希望ある未来だと思いました。そう思った理由ですけど、私たちは農業高校で自分たちが作物を栽培して、それを加工して販売しているのですが、コロナになってから販売ができなくなって、すごく高校内が寂しくなったので。直接的に関わることは難しいので、何か物を通して、活気ある社会になれば良いと思い、それが希望ある未来だと思いました。

講師

自分たちが挑戦したいと思うことに挑戦できる社会になれば良いですね。

【奈良委員】

直接会話とかはできないので、何か得意なことでも、そういったことを通じて関わられたらと思います。

【眞鍋委員】

自分の想いを伝えられる場所や機会がある社会です。発言しないだけで、日々考えていることや感じていることはあると思うので、もっと多くの人がある想いを表に出すことで、良い方向に変わっていくきっかけになり、希望ある未来につながると思いました。

講師

そういう風に思ったきっかけはありますか。

【眞鍋委員】

最近、親とテレビでコロナ等のニュースを見るときに「こうなったら良いよね」とか、ニュースに関して考えたことを話す機会があり、そういった身近な人との会話などから良いアイデアが生まれるかもしれないと思ったからです。

講師

若者みんなの声がちゃんと聞こえる、それを伝えることができる社会が、私たち（講師）のミッションだと思っています。

【山川委員】

差別や偏見のない未来だと思います。理由として、私が通っている支援学校は、心などに問題を持った人が学校に入学してくることが多かったですし、実際「24時間テレビ」などの番組等もやって、障がい者の方に対する呼びかけみたいなのが、どんどん増えている時代なので、だからこそ、偏見や差別がなくなればなという思いがあります。

【中川委員】

互いに誰かを助けたいという人がその気持ちを持ち合える社会が良いと思います。全員が幸せになるとか、誰も不幸せな人がいない社会は難しいかと生活をしていて思っていて、でも、そのためには、差別されている人を助けたいという気持ちを一人一人が持てる社会になれば良いなと思いました。

講師

困っている人を少しでも取りこぼさない社会が、中川さんにとっての理想の社会ですか。

【中川委員】

困っている人がいた時に助けたいと行動できる、もし助けられなくても、その気持ちがある限り、素敵な社会になるのかなと思います。

【及川委員】

山川委員の言うとおり、差別や偏見のない社会であったり、どの年代でも住みやすい社会が希望ある未来じゃないかなと思います。高齢者はSNSとかが普及して、情報を得ることが難しくなっているし、10代や30代でも税金で食べている人とかは、税金泥棒と言われてたり、子どもも児童虐待とかあるし、児童養護施設とかにいることを差別する人もいると思うんですけど、それで、その子ども達に未来に希望がない訳ではないし、虐待によって亡くなることもニュースでやっているのだから、救える子どもを救って、どの年代でも住みやすく、差別や偏見のない社会が一番良いのかなと思います。

講師

生まれついた環境で、何もかも左右されてしまうことは現実には起こっていて、それが少しでも解消される社会になればと思います。

【中村委員】

いつも通り過ごしている日常、健康なこと、家族に仕事があること、安心して暮らせることが10年後にも変わらずに続いていることです。

講師

今は、コロナ禍でそれが逆転しているような部分もあるので、家族の時間が崩れない社会というのは目指したいところですね。

【工藤委員】

全ての人の意見が反映される社会。そうすることで全ての人が不満を持たないで暮らせるからですが、全員の意見を反映させるのは難しいとも思います。選挙の全員が立候補者のような感じになってしまう。

【佐藤さくら委員】

コロナが収束しマスクを付けなくても良い未来です。なぜかというところ、日常生活の中でマスクを付けていると、相手の表情がわかりづらいことがあったからです。

講師

そうですね。日常生活でマスクを付けていると表情がわかりにくいことがあるから、コミュニケーションが取りにくくなりますよね。

講師からの質問③

「みんなが話してくれたことの実現には何が必要なのか」

「今、できること。実現のために障害になっていることはあるか」

【赤川委員】

幼少期に体験した家族を実現するために、障害となっていると思ったことは、出産とかが難しいなと思いました。有名人の出産のニュースとかあると思うんですけど、自分だったら、もし今生まれたら子どもに苦しい思いをさせてしまうとか、考えてしまうので、そういうことを考えずに安心して生むことのできる社会になったら良いと思いました。

講師

赤川さんの言うとおりの、生むのにも、育てるのにも、その準備にもお金がかかり、いろいろな人のサポートが必要になります。

【平岡委員】

進路を考える上でも、まずはコロナの収束が必要で、そのためには自粛の徹底が必要と思っています。インスタグラムをやっているんですけど、アーティストのライブに行ったりとかも多くて、札幌のコロナが増えている状況で、札幌に進学する人が多いのですが、このままだと影響が出てしまうので、基本の自粛をして、三密とかをしないようにすることが必要だと思います。

講師

まずはコロナが収束してからいろいろな活動したいというところですね。収束のためにも自粛も必要で、でも経済活動もしなければならなくて、今度は別の問題になる可能性もありますね。

【小菅委員】

自分が思う理想の社会の障害になっていることは、まずはコロナの収束を目指すことが大事だと思っています。皆さんが言っているように対策を徹底して、意識を高めてやっていくことが一番だと思っています。世界中の学校へ行けない子や医療を受けられない子については、その国の医療の発展が必要だと思うので、発展している国が技術等を伝えていって、医療の必要な国が技術を高めていって、医療とかをみんなが受けられるような世の中にしていくことが大事かなと思いました。

講師

もう少し、障害になっている部分を教えてください。

【小菅委員】

コロナが収まっていないこと、医療が発達していないことで、医療を受けられないこと、そういったことが、障害になっているのかなと思いました。

講師

ワールドワイドだと課題が複合するから、すごく難しいなと思っています。SDGsとか、主体的に取り組んでいかなければいけない機運になっているのもそういうことかなと思います。

【奈良委員】

人それぞれで理想の形が違うので、そこから偏見や差別が生まれて、それが社会の障害になってしまうと思いました。なので、このような意見の交流を増やしていったら、様々な人の理想の社会に少しでも近づけるのではないかなと思いました。

講師

偏見は知らないことで生まれるということもありますよね。

【大八木委員】

コロナの収束も、その後の経済復旧も合わせてやっていかなければならないと思います。

【工藤委員】

全ての人の意見が反映される社会を目指しても、動かない人も多いので、そこを動く、そして、自分の考えを周りと共に共有することが大事だと思います。

講師

人の意見を聞くことも当然大事ですが、自分の思いをどうやって伝えていくかも大切ですね。そういうことを繰り返して行って、賛同者が増えることで、ムーブメントとなるのかなとも思います。

講師による総評

誰かが何かをしてくれるではなく、自分や周囲の人がいろいろな考えを持ち寄って、こうしたら良い等、意見を出し合って、力を貸してほしいときには声をかけていく。

言葉で出てきた思いだけが全てではないので、なぜ、どうしてと感じたことは調べて深掘りしてほしいと思います。事実が何かを確かめる作業がとても大切です。

1日目終了、2日目についての説明

- ・事務局から、明日の日程や注意事項などを説明。

29日の内容

1 グループ討議について説明

2 グループ討議開始

ABCの3つのグループに分かれて、実施
テーマ

「新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中であっても、
私たちが未来に希望を持って生活するために必要なこと」

3 グループ討議結果の発表、全体討議

意見交換、部会長からのコメント

4 閉会

グループ討議について説明

- ・事務局から、本日の流れ等について説明

グループ討議開始

Aグループ

Bグループ

Cグループ

グループ討議結果の発表、全体討議

【Aグループの発表 小菅委員】

まず、「コロナ禍で起きた身の回りの変化」から話し合いの結果を説明します。学校ではオンライン授業とかが増えて、良かった点は、先生とのやり取りがしやすかったり、勉強の計画が立てやすかったりしたところで、良くなかった点として、目が疲れたり、トラブル（機材）があったりしたことが、オンライン授業の不便なところとして挙がっていました。ほかには学校行事の縮小や部活の停止、入学式からマスクで顔が見えない状況があったこと、昼食は黙食で静かに過ごすことが、生活の変化でした。

そして、「家庭での変化」は、外出が減った、消毒・手洗い・うがいの徹底によって、風邪とかが減少したこと、勉強する時間が増えたこと、家族といる時間が増えたことがありました。

「友人関係の変化」は、遊ぶ時間が減ったりして、会えなくて寂しい思いをしたこと、休校中はLINEやオンラインゲームでのやり取りが増えたこと、休校開けは、マスクをしていても会えることが嬉しいという気持ちの変化がありました。そのほかにも、ボランティア活動をしているところは、できることが増えて良かったという意見もありました。

次に「変化によって気がついたこと」ですが、周囲に合わせてマスクの着用などがあり、強制力がないので、注意をしづらいという意見がありました。

たくさんの制限がある中で、学校祭やイベントで、できることを自分たちで考えて、新たに挑戦していくことが大切だということ、人との関わりが減って、人との関わり大切さ、人と会うことで自分の気持ちも上がることに気がつきました。

また、人と直接会って話をしないと伝わりにくいことがあること、マスクをするしないの基準だったり、そういうことは他人と価値観が違うことにも気がつきました。

「私たちが未来に希望を持って生活するために望むこと」は、コロナに関する正しい情報の公表、これはコロナに対する不安を軽減させるために必要だと思うし、明るい見通しのある情報を公表することで、自分たちの未来にもつながると思いました。

今回のような話し合いの場をもっと増やしていくこと、希望を持つためにやりたいことを見つけて、例えば就職活動やオープンキャンパス等の充実をもっと進めてほしい、オンライン授業の充実も進めてほしいという意見もありました。

【Bグループの発表 中川委員】

私たちは、変化によって気がついたことやコロナ禍で起きた身の回りの変化から、私たちが何をすべきなのかということ具体的に4つにまとめました。1つ目が「自粛」、2つ目が「人とのつながり」、3つ目は「コロナ禍でも活気のある社会」、4つ目が「偏見や差別をなくす」ということです。

まず、「自粛」ですが、自粛が進まないと同じことの繰り返しだなということで、自粛を終わらせるためには「家でできることをしよう、できるようにしよう」ということで、インターネットでの買い物をすること、インターネットが（店で）使えるということを広めていくことも大事だと思いました。あとは、家の中でも外と同様に楽しめることがあれば、家の中で自粛することも可能なのではないかと考えました。

もう1つは、コロナ禍を軽視しているから自粛が進まないのではないかとという点で、「辛さを伝えてあげる」

こと、今、コロナで辛い環境にある人のことを伝えることで、自粛しようということやコロナの重さを伝えることも大事ななと考えました。

自分や友人なども一緒に自粛することで、自粛する気持ちにみんなでなろうということ、「自粛」についてまとめました。

2つ目が「人とのつながり」です。今はやはりSNSが大きいかなと思います。インスタグラムやTwitterなどを使って、コロナ禍でもつながることや町内会でみんなでLINEを交換するという、おもしろい意見もあつたりしました。インターネットの利点としては、国を介して遠方の人とも意見交換できるので、そこでもメリットが大きいかなと思いました。

コロナ禍だからこそ、手紙でつながってみたり、そのメリットは文字による暖かみを感じられたりもするので、良いのではないかなと思いました。

3つ目「コロナ禍でも活気ある社会にするために」です。それは何かと考えたときに、経済的に発展することで活気のある社会になるのではないかなと考えました。そのために、物を買うきっかけを作ることや地域で使える商品券を作ること、ロボットが商品を運ぶなど、人と人との接触を減らすこと、宅配サービスを進めることも、活気のある社会にするために必要なことと考えました。あとは、自分たちで話題を作る、今のオリンピックのような盛り上がる話題を、地域から私たちが発信することで、地域が活性化するのではないかなと考えました。

最後に4つ目である「偏見や差別をなくす」ということです。それには、何かを伝えることが重要になってくると考えました。伝える方法として、1つが、「動画などを使って伝える」ことです。動画などを使って「自分もかかるかもしれない」ということを伝えて、人を思いやる気持ちを持ってもらうことです。

2つが「相手にも自分にも見えるようにして伝える」です。例えば、リボンをつけて、リボンをつけている人は「差別をしませんよ」というような印として、自分にも相手にも見えるようにして、差別や偏見をなくしていくことが大事ななと考えました。

3つが「影響力のある人に伝えてもらう」です。最近では、大坂なおみさんが、差別をなくす運動をしていたりとか、影響力のある人にある意味流される人も多いと思うので、その力を使って、差別や偏見をなくすことも大事ななと思いました。

4つ目が、大多数の意見に流れる性質を利用して、伝えていくことが大事だと思いました。個人でも良いですが「差別や偏見をなくす」というメッセージを伝えて、それを大多数とすることで、広げていくことです。

【Cグループの発表 江尻委員】

まず、このコロナ禍で起きた身の回りの変化についてです。学校の変化は、「休みになった」、「黙食になった」、「マスクを全員付けるようになった」、「行事が中止になったり、短縮されるようになった」、新入生などがそうなのですが、「マスクを付けることで顔が覚えにくくなった」、「リモートなどの授業が増えた」です。

家庭での変化は、「（家族と）一緒に過ごす時間が増えた」、「家庭内でも感染対策をしている」です。

続いて、友人です。「外で遊ばなくなり、ゲームなどのオンラインが増えた」、「友人などとあまり会いたくなくなった」等の意見がありました。

変化によって気がついたことですが、「ゲームやリモートも良いが、実際に会った方が良い」、「今までの当たり前が、どれほど大事だったか気づけた」、「逆に、オンラインなどリモートの大事さにも気づけた」、「手を洗う等の感染対策で、インフルエンザなどの感染症の予防もできる」、「マスクを付けない交流のあり

がたさに気づけた」、「ひとり親世帯の辛さが浮き彫りになった」等です。

Cグループが、未来に希望を持つために、望む社会なんですけど、「情報共有ができる社会」、「働き口がある社会」、「教育に対して国からの補助がある社会」、「誰もが苦しむことのない社会」、「全員が安心して暮らせる社会」、「差別や偏見がない社会」です。

どうしたら、こういった社会が実現できるかということなんですけど、「医療の発達」、「心の大きさを育てる」、「子どもなど、もっと小さい頃から、差別や偏見の教育をするべき」、「心のバリアフリーをする必要がある」、「ハード面、ソフト面、どちらも大切」、「国からの支援も必要で、差別や偏見で一人ではどうにもならないことを支援する」、「気軽に相談できる場所を作る」等が挙げられました。

意見交換

【野村部会長】

以上で、3つのグループの報告を頂戴しました。ありがとうございます。今の報告を受けて、今後はグループに限らず、皆様方1人1人で、「こういう意見がうちのグループではあった」、「うちのグループでは、その話が出なかったけど、それ良いと思う」とか、自分のグループでの協議内容でも構いませんし、自分の考えでも構いませんので、17名全員、1人ずつ話してもらいたいと思います。

時間が1人1分と短くて恐縮ですが、全員の発言をお願いします。

【大八木委員】

昨日の話やグループ討議で、様々な意見を聞いて、とても良い経験になりました。どのグループにも共通していたのは、今すべきことはコロナの収束で、その過程での情報発信とか、サポートとかが重要なのだと感じました。これからも、このような機会があれば積極的に発言して、意見を聞いて、生かしていきたいと思います。

【中村委員】

他のグループから、自分のグループでは出なかった意見もたくさん聞いて、いろいろな視点で考えられることもあったので、共感できることや感心できることが、たくさんあって、自分の考えを広げることができたので、すごく良かったです。

【高久委員】

全グループ、コロナや差別について重点的に考えていて、他国に目を向けている人もいて、良い意見が聞けました。似たような考えを持っているグループもあって、良い刺激になりました。

【江尻委員】

先ほど、BグループでLINEを使って、地域の方と交流をするといった意見があったと思うのですが、そういった意見は若者でないと、なかなか出てこないのかなと思ったので、このような話し合いをもっと行った方が良いのかなと思います。そして、またこういった機会があれば参加したいと思いました。

【及川委員】

Bグループから出ていた意見で、手紙を使ってやり取りをするというのがあって、手紙は文字だけど、手書きなので、文字の個性とかいっぱい見られて、LINEとかだと画面上で同じような文字だから、わかりにくいところとかあるけど、手紙だと人の個性とかも出て良いなと思ったので、今後の自分の活動に活かしていきたいと思いました。いろいろな意見を聞いて嬉しかったです。

【平岡委員】

昨日と今日のリモートで、様々な環境の人がいる中で、様々な観点からの意見が聞けて、良い交流になったと思います。今日のグループ討議では、経済的な問題、飲食店などがこれからどうしていけば良いのか等、今、話題になっていることも、いろいろな意見が聞けて、とてもおもしろかったです。これからもコロナウイルスが蔓延している中ですが、今日出た意見を生徒会で生かしていけたらと思います。

【茶谷委員】

この2日間を通して、自分たちの学校や地域とは、違った環境の人たちの意見を聞くことができ、自分自身の考えを深めることができました。それだけでなく、これからどうすれば良いかと、マイナスな意見ではなく、前向きな意見を聞くことができたので、これからの生徒会や学級での話し合いに生かしていきたいと思っています。

【大山委員】

2日間を通して、いろいろな意見を聞けて、いろいろな視点で見られたので良かったと思います。どのグループにも共通して「今、やらなければならないこと」と「コロナの収束に向けてやらなければならないこと」、例えば、今やらなければいけないことは、オンライン授業の充実だったり、情報の共有だったりとか、コロナ収束のために、マスクをしっかりと付けるとか、自粛をするとか、どのグループにも出ていて、この2つが大切だと思いました。

【佐藤さくら委員】

2日間を通して、とても勉強になりました。これから生徒会でこの経験を生かして、取り組んでいきたいなと思いました。

【奈良委員】

昨日と今日を通して、同じテーマであっても、様々な視点から、たくさんの意見を聞けて充実した時間でした。これらの意見を生徒会を通して、学校全体で考えていければ良いなと思いました。

【佐藤愛委員】

Bグループが言っていた、差別や偏見をなくすために、リボンを付けるとか良いなと思って、目に見える形で自分の意思を伝えることは誰にでもわかることだなと思ったので、やってみようと思いました。この2日間でコロナに関して、いろいろな考え方を知ることができて、すごく良かったです。

【赤川委員】

普段、友人や家族とは、堅苦しいような話題は敬遠しがちだったので、こうして話すことができ、良い機会でした。自分は3年生なので、もう任期は短いのですが、生徒会でも今回の意見をなるべく反映できるように、努めていきたいと思っています。今回の経験を糧に、これからもこういった話し合いの場に恵まれると思うので、この経験を生かしてやっていきたいと思っています。

【工藤委員】

今回の話し合いで、いつもの生徒会メンバーでなく、違う学校、環境の人と意見を交換、交流ができて良かったです。1日目の講義では、自分の考えをより深めることができ、他の人の意見では、自分では出てこないような意見をたくさん聞くことができました。2日目ではグループ討議の結果を共有でき、また理解を深めることができました。今回の話し合いを、これから生かしていきたいと思っています。参加できて良かったです。

【中川委員】

Bグループでは、具体的な意見をまとめて考えたんですけど、このようなことを誰かがやるではなくて、自分からやっていくようにと昨日の話でもあったので、私たちもそういう意識を持ってやっていきたいなと思いましたし、やっぱり、こうやってみんなで話し合うことによって、自分では出ない意見が出たりするので、そういった話し合いによって、これから自分たちがどうしたいったら良いのかと、これからより一層話していきたいと思いました。

【小菅委員】

今回、このような機会を作っていただいて、参加させていただいて、目的としていたコロナの考えを深めることができたし、今回の活動を通して、コロナ禍であっても、新たなことに挑戦していくことが大切だと、私はすごく思いました。みなさんの意見を聞けて良い経験になりました。

【山川委員】

2日間で色々な意見を聞くことができ、今日は特にグループで話し合ったりして、もっと話し合いを深めることができたので、これからは生かしていきたいと思います。

【眞鍋委員】

私は、学校生活が早く普通に送れるように、我慢できるところはしていきたいです。コロナによってマイナスなこともあれば、プラスのこともあったので、これからも前向きに過ごしていきたいと思います。

総括コメント

【野村部会長】

多くの大変貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。最後に私の方から総括というか感想も含め、少しお話したいと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響で起きた身の回りの変化については、各グループで似たようなポイントを話されていたように思います。学校（授業）がオンラインになり、勉強する時間が増えたと頼もしい意見もありました。そういう面もあれば、中体連、高体連、中文連、高文連といった部活イベントがことごとく中止、延期、縮小、オンライン実施になり、勉強以外の部分の皆さんの生活のハリになるような部分がなくなってしまった。

家庭では、親のテレワーク等で必然的に家族の時間が増え、これはプラスの面が出たのかなと思います。ただ、コロナの影響で仕事の面で厳しい状況になったことも間違いなく出てきています。特に飲食やそれに関わるお仕事に携わる方々は、本当に御苦労されています。先ほど経済の問題も出ていましたが、家庭に及ぼす影響は、あまり出ていない世帯と直撃している世帯があり、様々だと思います。

友人関係では、会えないという状況で、SNSでのやり取りが増え、遊び方が変わったという意見がありました。手紙を使って、関係を再構築していけば良いのではないかという良いアイデアも出していただきました。ただ、御承知のとおり、SNSの情報も全てが正しいとは限りません。情報を見極める目を持ってほしいと思います。

大学に入っても入学式からオンラインとなり、学校に行けず、実家にも帰ることができないという学生、自

主退学を選ぶ学生も出ています。こうしたことを踏まえて、今後は、良い大学、良い会社の判断基準が変わるかもしれません。オンラインの仕組みがしっかりしているところが良いという時代が来るような気もします。皆さんの希望に添うオンラインのカリキュラムを用意している学校、テレワーク等の仕組みがしっかりして、業績を伸ばしている会社が生き残っていくのではないかと思います。

「未来に希望を持って生活するために望むこと」の協議結果は、私が楽しみにしていた部分であり、皆さん、それぞれ勉強されて、自分自身の意見を持っていて素晴らしいなと思いました。現在、SNSの世界では、差別、偏見、虐待などの問題が頻繁に取り上げられ、利己的な社会になりつつあります。どうか、皆さんには、不確かな情報に惑わされず、自身のやりたいことを取捨選択し、未来に希望を持って、生き生きと生きて行ってほしいなと強く思いました。

最後に今後のスケジュールについてお知らせします。この部会で出た意見については、「北海道子どもの未来づくり審議会」に報告し、審議会でその内容を「提言書」として取りまとめ、知事に提出することとしています。審議会への報告については、私が子ども部会を代表して報告します。

また、知事への提言は、今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、時期や実施方法を検討し、私と副部長である赤川さんが、皆さんの代表として、知事に「提言書」を提出していきたいと考えております。

皆さんには、長時間に及ぶ討議をしていただきました。部会長として改めてお礼を申し上げます。以上で、本日の議事は全て終了します。大変お疲れ様でした。

それでは、事務局にお返しします。

閉 会

・事務局からの連絡事項